

平成21年度 学校自己評価システムシート (県立上尾橋高等学校)

目指す学校像 **地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、社会に貢献できる人材を育成する。**

重点目標

- 1 基本的生活習慣を確立し、規律意識を高める。
- 2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。
- 3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。
- 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (3月18日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	現状 ・入学以前から始め、毎月行う服装頭髪指導や平常時の校内での指導が浸透し、茶髪等で登校する生徒はいない。正門での登校指導や特別指導週間を設け、規律意識の向上に向け働きかけている。 課題 ・身だしなみ等指導時には直すものの、その後服装等が乱れてしまう生徒も一部にあり、規律意識の習慣化が課題である。	○規律意識の向上	・現行の校内規定の共通認識を進め、指導体制の強化を図る。 ・PTAとの指導体制の連携を深め、生徒の現状について共通理解を持つ。 ・環境整備委員会に働きかけ、定期的な校内巡回と点検結果を全職員・生徒にフィードバックし規律意識の向上を図る。 ・生徒会と話し合い、身だしなみについて生徒自身の意識を高め、身だしなみの改善を図る。	・頭髪服装規程を守る生徒が前年度より増加する。(評価アンケート) ・PTAとの連携、指導体制の整備生徒理解の共有化は進んだか。 ・挨拶ができる生徒が前年度より増加する。(評価アンケート) ・環境整備委員の校内巡回により、清掃状況についての啓発が進んだ。 ・生徒総会では「服装規定の見直し」が提起され、服装規定を厳守する重要性を全生徒が考える契機となった。 ・生徒会新聞を発行し、生徒主体の啓発活動が実現できた。	・アンケートの結果、服装規定を守る生徒は62.8%、挨拶のできる生徒は72.4%。 ・交通安全指導、通学路・駅周辺美化活動、学校行事等をPTAと連携し、学校生活・生徒理解の共有化を進めた。 ・環境整備委員の校内巡回により、清掃状況についての啓発が進んだ。 ・生徒総会では「服装規定の見直し」が提起され、服装規定を厳守する重要性を全生徒が考える契機となった。 ・生徒会新聞を発行し、生徒主体の啓発活動が実現できた。	B	・マナー・身だしなみの向上のために指導体制を整える。服装規定見直しも含め、生徒への啓発を継続する。 ・30周年式典準備等を進める中で、PTAとの連携強化に努める。
	現状 ・基本的生活習慣の確立のため、HRでの遅刻指導、遅刻防止週間を設け、遅刻防止に努めている。 ・生活習慣について迅速な生徒把握を行うため、遅刻カードの活用、出席簿記載の徹底を進め、教員間で連携した指導体制をとっている。 課題 ・指導に従わない生徒はいないが、遅刻を繰り返す生徒が一部にあり、家庭との連携、本人の自覚をさらに促していく必要がある。	○基本的生活習慣の確立 遅刻欠席等の防止	・生活委員会の活用(月間目標の制定など)により、規律意識の啓発を図る。 ・遅刻記録カード、出席簿を活用した指導体制作りを進め、遅刻の多い生徒に迅速に指導できる体制作りを進める。 ・迅速でこまめに家庭連絡をとれるよう情報共有化を進め校内体制を整備し、家庭と連携し遅刻欠席防止に努める。 ・環境整備委員会による清掃点検を毎週実施し、生徒相互の清掃活動への啓発をすすめる。 ・全校美化活動を実施し、環境美化に関する意識の向上を図る。	・生活委員会を活用し、生徒が自主的な月間目標を定め、周知することができたか。 ・遅刻欠席等の延べ人数(率)が前年度より減少したか。(出欠統計) ・出席簿の記載は当日中に適切に行われたか。 ・きめ細かい情報交換を行い、家庭との連携強化を図れたか。 ・清掃点検表の○の数が前年度より増加したか。 ・校内外の美化活動を年に6回以上実施できたか。	・きめ細かい授業を展開するため、本校は選択等の授業が多い。年度当初の会議にて、出席簿の迅速な記載を確認。帰りのHRにて担任から本人に確認する環境を整えた。結果として、家庭への連携等も円滑にできる体制ができた。 ・遅刻数については、昨年並み。 ・正門付近、バス停付近の花いっぱい活動が年間を通して行われた。 ・生徒による校外美化活動を年間6回、校内の美化活動も6回行った。 ・一年生の自発的なボランティア活動により3回校外美化活動を行った。	B	・遅刻の多い生徒への指導の検討を進める。 ・基本的生活習慣の確立のため、さらに家庭との連携強化に努める。
2	現状 ・チャイム着席指導は、教職員間にも生徒間にも、ほぼ浸透した。 ・まれに授業中に携帯電話等を出してしまう生徒もいるが、迅速な指導が行われ生徒も理解している。 ・服装や身だしなみの乱れについても授業に取り組む姿勢の一貫として各授業中に指導している。 課題 ・授業規律の確立の指導を理解はしているが、授業に集中しきれない生徒が一部にあり、具体的で明確な指示を出す工夫が必要である。 ・生活習慣同様に習慣化させるために、授業規律についての意識啓発と家庭との連携をさらに深める必要がある。	○授業規律の確立	・チャイム着席の習慣化をさらに進め、チャイムで始まりチャイムで終わるまで集中できる授業体制を目指す。 ・整容指導、携帯電話の使用など登校時から放課後、下校指導まで一貫して行う体制づくりを進める。 ・校内外の美化活動の推進し、自らが学ぶ場を自らが整えるという意識を啓発する。 ・授業公開を推進し、教員間に生徒理解の情報共有化を図る。 ・授業公開の推進により、「誰が見ても恥ずかしくない態度」を生徒に自覚させ、授業規律の向上を図る。 ・授業アンケートを実施し、集中できない生徒に対する理解を深め、情報を共有し対策に努める。	・引き続きチャイム着席等の指導が日常化できたか。 ・チャイム着席指導を進め、チャイム始業の指導を導入できたか。 ・登校から下校まで日常的な声かけ指導など、共通理解を持って行われたか。 ・校内外の美化活動を拡充し、学校環境の整備に努めたか。 ・授業公開日を年間20日以上設定できたか。 ・授業公開の趣旨を生徒に周知し、授業規律向上の意識を啓発したか。 ・授業公開に際し情報の共有化を進め、指導方法の改善等の研修の場を設けたか。 ・授業アンケートを実施し研修会等での活用を行ったか。	・教員の指導に応じて生徒が動く段階でチャイム着席はほぼ定着しつつある。ポスターを掲示し、生徒が自発的に始業準備を行うよう啓発に努めた。 ・登下校指導・遅刻指導などの際、カウンセリング手法を用いながら生徒指導を行う教職員体制は確立されている。きめ細かい指導の重要性を認識している。 ・昨年度実施の校外美化活動が定着化。 ・学期末の私物整理期間が徹底された。 ・授業公開日は年間15日間。+行事公開が3日。参加数が少ないものもある。 ・研修会の実施はできなかったが、定例会議の場など、授業評価について活発な意見交換があった。学年・教科の意見を今後の教育課程編成や授業・評価の改善に生かしたい。	B	・生徒の自主性によるチャイム着席とチャイム始業指導の推進。 ・授業規律の確立のための指導をさらに徹底する。 ・「学び直し」「つまずき克服」のための取組について検討する。 ・新学習指導要領に基づく教育課程編成の検討を進め、学力を定着させるために必要な指導の検討を進める。 ・生徒に身につけさせる学力とその評価方法について検討する。 ・「わかる授業」の提供のために、授業改善をさらに進める。
	現状 ・教員がきめ細かい指導を通して生徒理解に努め、魅力ある授業の提供に努めている。	○学力向上・個性伸張のための授業改善、および多様な教育活動の推進	・授業公開、授業アンケートの実施を通して、魅力ある授業への改善のための情報を共有化する。	・授業公開、授業アンケートを拡充し、情報分析、共有化とともに授業改善に活用したか。	・授業アンケートについて例年通り実施。情報共有化をすすめて、今後の授業改善に活用したい。	B	・授業公開週間の参加者増加に向け、働きかける。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成22年 1月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>生徒が自主的に清掃活動をはじめたのはとてもいいことである。地域の方々は、なかなか学校に入ることができないので、そのような活動を見ると、学校の見方が変わってくる。また、学校のことをなかなか見られない人は、学校がどのようなことをしているのか、どうなっているのかが判断することが困難である。そのような人たちには、例えば、体育祭や文化祭、授業公開日などの連絡(通知)をし、地域の方・評議員の方々に学校に来てもらい、意見を言ってもらうなどして、貢献していくことができるのではないかと。懇話会のおきだけ学校に来て話すのでは、なかなか意見を言いづらい。</p> <p>頭髪、服装は家庭で教えていかなければいけない問題だと考えています。学校でそのような指導をするということは間違っているのではないのでしょうか。規定にそぐわないときには、やめてもらうぐらいの勢いで指導してもらったほうが生徒会がやりやすいのではないのでしょうか。</p> <p>以前勤めていた幼稚園をたてなおすために、園庭をきれいにすること、花を植えることをやり、効果があらわれた。学校でそのようなことをやってみてはどうか。</p>	

2	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動等を通して目的意識を持たせて学習に取り組む姿勢を育てている。 ・成績不振・基礎学力不足の生徒に補習等対策を講じているが、一部に積極的に参加できない生徒もいる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動、総合学習等を活用し、生徒の生きる力の向上を目指す多様な教育活動の展開が必要である。 ・教員間の生徒把握の情報共有化をさらに進め、共通認識を持って授業改善等に反映させる機会を設ける必要がある。 ・授業改善や多様な教育活動を通して、生徒に達成感を与える取組を進める必要がある。 ・学習することの意義や高校生活の重要性を理解させ、具体的で明確な目標を持って学習に取り組む姿勢を育てる。家庭との連携も重要である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材の活用を進める。より実用的な教材を示すことにより、生徒の関心を引き出し、学力の定着を図り達成感ある授業づくりを行う。 ・総合的に判断する評価方法について、研究し、評価方法の改善に努める。 ・学力向上・進路実現のための多様な教育活動を展開し、様々な方向から生徒の興味関心能力を引き出す。 ・学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に参加し、自ら考え、行動できる態度、能力をを育む。 ・異校種間交流をすすめ、上級学校理解や学問の本質を経験させ、より深い興味関心を引き出す。 ・「総合的な学習の時間」の位置づけを明確化し活用する。自己理解・体験活動ガイダンス・進路研究・在り方生き方教育を通して、全人格教育を進める。 ・資格取得の推進し、積極的な学習態度やチャレンジする精神を育てるとともに、達成感ある学習活動を進める。 ・資格取得のための補習や指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材などの教材研究、活用を進めることができたか。 ・生徒が達成感を与える授業と評価について研修、改善を行ったか。 ・学力向上・進路実現の取組を新規導入したか。 ・補習等のきめ細かい教育活動が展開できたか。(補習展開数・参加生徒数) ・学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に参加できたか。 ・授業アンケートの満足度は70%を超えたか。 ・異校種間交流をすすめ、多様な経験と興味を引き出すことができたか。 ・総合学習の位置づけを明確にした取組を行ったか。 ・資格取得による県知事表彰者を10名以上出すことができたか。 ・資格取得者が前年度より増加したか。(各種検定試験結果) ・成績不振者、中途退学者は減少したか。 ・成績優良者は増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業・情報の他、家庭科、芸術、地歴、公民、数学、外国語、理科などでICT教材等を活用。わかる授業の提供に努めた。 ・学び直し・つまずきの克服を目的として、「10分間チャレンジ」を導入した。 ・成績補習の他、資格取得・進路実現・コンクール出場等の補習を展開した。 ・生徒会役員は、全員が自ら立候補した生徒である。生徒会企画の行事も多く、全校生徒の積極的な参画を進めた。 ・アンケートで「授業に満足」とした生徒は、65.8%。 ・異校種間交流は、上尾特別支援学校と東京工業大学と行った。 ・総合学習の時間については、ボランティア活動(校外美化活動)、学力向上(10チャレ)、道徳教育等の方向性が確立。 ・資格取得の合格率は、7月の全経簿記検定2,3,4級で93%、11月の情報処理検定3,4級の1年生の合格率100%を実現した。2月の全経簿記2級は95%。 ・一学期には、欠点保有者数は前年比19%減(二学期は逆に微増)、成績優良者数30%増を実現。 ・二学期までの中途退学者数は昨年比で大幅減。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容の精選および実施時期の見直しを行う必要がある。 ・英語スピーチコンテスト・資格取得等に向けた指導の継続と体制確立。 ・道徳教育の具現化のため、更なる体制強化を確立し、生徒に持たせたい道徳観等について明確にしていく。 ・多様な評価方法の可能性について、継続して検討していく。 ・中途退学者の防止策の検討。
3	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期よりガイダンス等行い、進路意識を育む指導を実施している。 ・進路指導部と学年が連携し積極的に働きかけ、学校の指導を積んだ生徒の就職率は100%である。 ・生徒の進路意識向上や教職員の共通理解によって、個別の進路指導を行う体制が確立されている。 ・進路面談の結果、分掌一学年間の情報交換が円滑であり、生徒の進路実現にとって有益である。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業観等の意識が未熟な生徒に、2.3年次からでも進路意識を育てていく教育内容の工夫が必要である。 ・一部に目的意識が明確にもたず、資格取得などの自己のスキル向上に積極的になれない生徒がいる。 ・家庭の事情等で希望の進路が実現できない生徒がいる。保護者にも情報を提供し、連携を強化する。 	○夢を実現させる進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路行事を計画し、進路講演会、分野別ガイダンス等を通して、生徒・保護者の進路意識の涵養を図る。 ・資料を活用し、生徒の状況把握と、生徒・保護者・学年団への情報提供に努める。 ・進路行事への保護者の参加を呼びかけ、保護者への情報提供に努める。 ・進路行事やインターンシップを活用し、啓発的経験を得させることにより、勤労観・職業観の育成を図る。 ・キャリアガイダンスとリンクした体験活動を展開し、知識と経験の両面から、職業意識、目的意識の明確化を進める。 ・就職支援アドバイザーを活用し面接指導等をより充実させるとともに、社会に求められる人材としての自分を高める意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望が実現する。(就職希望者の就職内定率100%を維持する)(生徒進路結果) ・進路に関する講演会・研修会の回数と内容の充実できたか。(評価アンケート) ・生徒の進路志望に応じたキャリア教育を推進できたか。 ・生徒の進路志望や目的意識についての情報共有化は進んだか。 ・職場見学等、啓発的経験を得させる機会の回数と内容の充実できたか。(評価アンケート) ・社会体験事業を通して、高校生活に目的や意義を感じさせることができたか。(アンケート) ・進路未定者は前年度より減少したか。 ・保護者にも進路意識の啓発する活動に取り組むことはできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介での就職希望者の就職内定率は2月末時点で100%。残りの生徒についても、正社員での就職を目指して、合同面接会を活用して、就職活動を進めていく予定。 ・県の労働局主催の3年生対象の就職ガイダンスを校内実施した。ガイダンスを通じて、面接のマナーや進路意識が向上し、その後の会社見学や就職試験で意欲的な様子が見られた。3月には2年生対象のガイダンスに若干名ではあるが申し込んでおり、意欲的に参加してほしい。 ・1年生では仕事理解について、2年生では職業理解や分野理解、3年生は進路希望に合わせたガイダンスを実施し、進路に関する知識や情報の積み重ねと進路意識の涵養を図った。また、ガイダンスでは保護者の参加も呼びかけ、保護者への情報提供にも努めた。 ・2年生では希望者がインターンシップにも取り組み、社会体験を通じて、進路に関する意識を高めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も就職希望者の内定100%達成に向けて、就職支援アドバイザーや就職ガイダンスなどを活用し、就職指導のより一層の充実を図っていきたい。 ・就職試験での試験内容、大学や短大、専門学校の入試が多様化してきており、その変化に対応できるよう、学年や生徒、保護者への情報提供をより一層取り組んでいきたい。 ・進路ガイダンスについては、各学年での内容や回数については充実してきつつあるので、今後も継続していきたい。 ・ガイダンスへの保護者の参加を呼びかけているが、なかなか保護者の参加が得られないので、工夫していきたい。 <p>就職は厳しい状況にあるが、今年のように平方出身の就職支援アドバイザーの方に7月中旬より面接練習をしたり、夏休み中の一日を使い、就職心得、履歴書の見方・書き方、集団面接練習をするなど、地域の方の協力を得ての取り組みはとてもよい。また、外部の講師にも来ていただき、面接練習を重ねている。</p> <p>就職は、人物重視の傾向があるので、とにかく面接に力を入れて欲しい。</p> <p>面接官をしている時に感じるのは、自分の意見がはっきりしていれば、どんな質問をされても答えられるし、気持ちが伝わってくる。しっかりとした考え・気持ちがある人は人の目をしっかり見ているし、何よりも一生懸命である。自己アピールができるよう心構えや態度を身に付けて欲しい。</p>
4	<p>現状・地域、保護者に向けた通知、啓発など情報発信を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活、学習、安全面等で保護者との連絡を密にし、連携強化に努めている。 ・生徒を介した通知が保護者にわたっていない場合がある ・治療勧告、麻しんの予防接種率等が低く、生徒、保護者の健康に関する関心が薄い。 ・学校行事や校外生徒指導では、PTAとの連携が図られている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者来校の機会を拡充するとともに、アンケートなど地域、保護者の声を集約する機会を増やす。 ・保護者や地域からの声を学校内で集約し、共有していく体制づくりを進めていく必要がある。 ・本校の教育の特色について、具体的に中学校や地域に発信し、不本意入学や学校不適応を防止することに努める。 ・地域と連携し、全校美化活動を充実させる。 	○機会を捉えたきめ細かい情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り・学年通信・HP等機を捉えた情報発信をさらに進める。 ・出席状況・学習状況の教職員の情報共有の推進と保護者・生徒への発信を迅速化する。 ・学校案内・説明会を工夫し地域・中学校にわかりやすく具体的に発信する。 ・授業公開・学校行事公開を拡充する。 ・進路実現等についても、情報発信を進め家庭との連携をすすめる。 ・面談・アンケートの実施活用。保護者等の意見を集約し、活用する。 ・学校説明会の際、中学生・保護者へのアンケートを実施し、今後の生徒募集に反映する。 ・教育相談の機会を拡充し、きめ細かい生徒理解、迅速な指導に備える。 ・授業公開週間を活用し、生徒の状況を多角的に捉える。 ・HP等を利用して、保健室から保護者に情報を発信する。 ・授業公開や文化祭・体育祭等の学校行事への保護者の参加者を増やすため、PTAに働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌、学年、学級等で機を捉えて各種の情報発信を実施できたか。 ・学習や出席状況の情報を教職員が共有し、指導に生かすことができたか。 ・生徒募集について、具体的にわかりやすい発信を行ったか。 ・授業公開、行事公開は進んだか。 ・進路関係の情報発信を行ったか。 ・面談、アンケートの結果を教職員間で情報共有できたか。 ・面談、アンケートの結果を今後に生かす研修、協議を行ったか。 ・学校説明会の際にアンケートを実施し、状況分析に努めたか。 ・分析の結果を教職員が情報として共有できたか。 ・分析の結果を今後に生かすための研修、協議を行ったか。 ・授業公開週間は拡充できたか。 ・授業公開を活用し、授業改善等の研修、協議は行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年・学級通信の他、保健環境部・図書部では生徒作成のページも含んで定期的に発信。渉外部はPTAを通して、生徒指導部は生徒会活動や集会の際に利用し啓発活動に努める。進路は前述の通り。 ・学校説明会の参加数は、前年比18%増。参加者へのアンケート「よくわかった」「興味を持った」は9割超。 ・三者面談については学年会にて情報の共有を図った。アンケート結果は、職員会議にて公開し、全職員の情報共有ができた。 ・学校説明会アンケート結果は、即日集計、翌朝配布され、迅速な改善に努めた。 ・授業公開は、より多くの参加をはかれるよう方法等の検討が必要である。 ・情報業務の充実と継続性を確保するため、情報部の分掌化について検討した。 ・新型インフルエンザ拡大防止の取組について、校内対応マニュアルの作成や全校集会・学校行事等における対策が迅速に行われた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校発の配布物が保護者の元に届いていないことも多いようである。HPの充実も踏まえて、情報共有を進める。 ・教職員全員で行う学校説明会・中学校訪問等を通して、本校に対する理解をさらに進める。 ・授業公開週間の参加者増加に向け、情報発信等の在り方を検討する。 ・情報業務の重要性が増すなか、図書情報部の業務内容と他分掌との連携について明確化していく。 <p>「地域に根ざし」という話ですが、生徒会として、この地域に対して、どういう受け取り方をしているのか迷っているのではないかと、ほかの地域から来ている生徒も多いので、生徒がどういう思いでいるのかを知りたい。地域の歴史や環境のことを知ること、地域の人との付き合い方をどうしたらよいかなどを考えていき、行動していかなければいけないのではないかと。</p> <p>一部の生徒の行為が、地域の方々に迷惑をかけていることがある。清掃活動は良いことなので、ぜひ続けてほしい。地域でいろいろ企画していることに、学校として参加してほしい。この地域では、環境フェスティバルやどろんどろん祭りなど活動できる場への参加が、地域とのつながりになっていくのではないかと。</p> <p>「地域に根ざし」という意味で、地域の歴史、学校の歴史のことは知ってもらいたい。橋高校という名前になった由来等を知ることにより、どこにもない名前の学校、歴史ある学校に通っていたという誇りを持ってもらいたい。</p> <p>10月に環境フェスティバルが行われる。ゴミ処理場のある地域の高校として、何かテーマを持って発表してほしい。高校入学に際して、もっと地元の子が多く来るようにしてほしい。そのためには、学校行事や取り組みなどがわかるよう情報を発信しないといけない。近隣の中学校に橋校通信を配布してほしい。</p>